

第3回 岡谷小学校のあり方検討委員会 会議録（要旨）

1 日時

平成25年6月26日（水） 午後7時～午後9時45分

2 場所

岡谷市役所6階 605会議室

3 出席者

委員 原豪志委員、林裕一委員、宮崎勇委員、三村田卓委員、藤森眞由美委員、林幸三委員、小林啓助委員、沓掛貴芳委員、田中沙里委員、瀨一平委員、武居崇委員、原史郎委員、八幡義雄委員、森本健一委員、荒深重徳委員、古本吉倫委員、岩下貞保委員（名簿順）
計17名（欠席者 薩摩林忠美委員、原山智委員）

地質調査業者 ㈱長野技研

岡谷市・岡谷市教育委員会

古屋博康教育部長、河西稔建設水道部長、吉澤洋人教育総務課長、山本文明土木課長、橋爪哲也企画課長、古川幸男危機管理室長、小口直伸土木主幹、三澤達也学校教育主幹、高橋卓教育企画主幹、清水亮教育総務課主査、八幡学土木課主査、宮坂洋平教育総務課主任

○会議次第

1 開会 午後7時

2 議事

（事務局から、会議の成立報告。続いて、委員長から、本日の会議について傍聴を許可してよいかどうかを委員に諮った結果、異議なく許可することとなった。）

<議事の内容>

- (1) 前回の報告等について
- (2) 対策工法等について
- (3) その他

【委員長】

(1) 前回の報告等について、事務局よりお願いしたい。

【事務局】

前回の委員会でご質問がありました地下埋設物の変状について説明いたします。記録のあ

る範囲では、平成 6 年に、南校舎と校庭の間に埋設してある上水道の管に亀裂が生じ、水漏れが発生したため、修繕を行った経過がある。また、下水管にカメラを入れて中を確認したところ、一部で水が溜まっていた。沈下によるものかどうかは確認できない。

【委員長】

下水管に水が溜まっていたというのは、最近のことか。

【事務局】

それほど最近のことではない。

【委員長】

この件について、質問ありますか。

(なし。)

なければ、続いて、事務局から説明願います。

【事務局】

(事務局より、追加ボーリング調査の結果について概要説明。)

【委員長】

このことについて、何かありますか。

【委員】

調査結果を要約すると、校庭の東側は、約 10 メートルくらいが盛土であるため、N 値が低く地盤が軟弱であり、反対に西側は切土の部分のため、やや N 値が高いということだと思う。実際に調査された業者の方のお話を聞きしたい。

【調査業者】

校庭の東側は、盛土が最も厚く、N 値が 3 程度の軟弱地盤が約 10 メートルくらい続いている。これは、これまで確認してきたボーリング調査の結果と同じである。それに対して、校庭の西側は、盛土は浅い。これは切土の部分である。全体的なことは、これまでのデータを合わせて検討する必要があるが、校庭の西側で浅く、東側に向かって急激に軟弱な盛土が厚くなっていると言える。

【委員長】

調査平面図上に、盛土の厚さを表示してもらえると分かりやすいと思う。

【調査業者】

等深度線で支持層の深さを表示している。地表から何メートルいくと、支持層まで届くかを示している。それを校庭の方まで広げたいと考えている。

【委員長】

それでよいと思う。ここままで、何か質問はありますか。

【委員】

調査平面図上の校庭部分には地盤沈下の表示がないが、これは上物があるかないかの違いによるものか。

【調査業者】

建物や舗装された所が無ければ、例えば5cm沈下したというように、沈下を認識できる目印になるものがないため、沈下しているかどうかは分からない。校庭は土のため。

【委員】

校庭も沈下している可能性はあるのか。

【調査業者】

可能性はある。認識できる目印がないだけ。

【委員】

校庭に建物を建てると、将来的に沈下していくのか。

【調査業者】

校庭には建物がないため、沈下が認識できないが、おそらく南校舎のある所と同様の状況になると思われる。

【委員長】

垂直方向への沈下は問題ないが、横方向に沈下することが問題。斜面になっているため、下に滑る可能性がある。他にボーリング調査についての質問はありますか。

【委員】

調査平面図上に2.5mとか5mとかっていう点線があるが、どういう意味か。

【調査業者】

間隔の違いを表示している。太い点線は5メートル間隔で表示し、例えば、地山から谷に向かって、0m、5m、10mというように、5メートル単位で支持層の等深度線を示している。

【委員】

25mと表示がある所は、盛土が25mあるということか。

【調査業者】

そうではなく、支持層に達するまでの深度を示している。軟弱地盤は、約10mくらいある。

【委員長】

他にありますか。

(なし)

なければ、次お願いします。

【事務局】

(事務局から、岡谷市および周辺地域の活断層等の地質構造についての説明。)

【委員長】

活断層と一般的に言われているのは、最近の時代まで活動しており、今後も活動する可能性がある断層である。活断層について、識者の委員さんから補足をお願いしたい。

【委員】

活動度が高いものをA級とするなど危険度で分類して、都市計画を行う際には、特に危険

なものについては、周辺に及ぶ影響を想定している。例えば長野県では、主要な活断層が動いた場合に、どういう被害が起きるかという想定を行っている。ただし、全ての活断層を想定することは難しい。

【委員】

今後東海地震が起きた際には、その他の活断層も動く可能性はあるのか。

【委員】

活断層が連動して動くのではないかという話は、最近よく言われているが、そのメカニズムはよく分かっていない。ただ、東海地震が起きたことによって、いくつかのシュミレーションがあり、諏訪湖周辺は震源からかなり離れた場所であるが、地盤が弱いため、おそらく大きく揺れるだろうと予測している。

【委員長】

平成 14 年に諏訪 6 市町村は、東海地震の強化地域に指定された。

【委員】

岡谷市の震度計はどこにあるのか。

【事務局】

市役所隣りにある保健センターの南側の階段下に、震度計がある。

【委員】

諏訪市と岡谷市では、震度に違いが出るか。

【事務局】

震度 1 以上の差は出る。

【委員長】

東日本大震災の時も茅野市よりも、諏訪市の方が揺れた。この辺りは、活断層に関して特殊な地域である。

【委員】

理学部の先生によれば、諏訪湖の存在自体が、糸魚川－静岡構造線の活動の結果によるものである。

【委員長】

活断層によって、私たちが住む所ができたと言っても過言ではない。

【委員】

活断層の周りにできた堆積物の周辺が平野になり、そこに農地ができて、そこに人が住むようになったのが実態である。

【委員】

活断層と地滑り地帯は同じような所にあるが、関係性はあるのか。

【委員長】

活断層によって地盤がもまれてる所に、地滑り地帯が存在していることが多い。

岡谷市の中で地滑り対策をしている箇所はあるか。

【事務局】

建設事務所や国土交通省の関係に関しては、地滑りとしての対応を取っている所はない。ただ、農林水産省の関係で、横川山の上の方に1箇所対策をとっている箇所がある。

【委員】

大雨がいつ起きるか予測がつかない。

【委員長】

ゲリラ豪雨は予測が難しい。土砂災害は、過去に大雨を経験したことがない所で発生する。

【委員】

資料の違いにより、活断層の有無や位置に違いがあるが。

【委員長】

調査の時期等によっても、違いは出る。

【事務局】

文献により異なることがあるのは、見解の違いによる。基本的には、国土地理院の都市圏活断層図は、どういう形で生活に影響するかという観点で、代表的な活断層を取り上げている。産業技術総合研究所や通産省の関係は、比較的、ある論文やある事象について発表している資料になる。詳細な位置ははっきり分からないという注意書きがある。

【委員長】

他にありますか。

(なし)

次に、(2) 対策工法等について。

現地存続に向けて検討したという対策工法等について、事務局より説明をお願いしたい。

【事務局】

(事務局より、対策工法についての説明。大きく軟弱地盤対策と地滑り対策が必要となり、様々な検討を行った結果、軟弱地盤対策については、パワーブレンダー工法による中層地盤改良が相応しい。これは、セメント系固化材などの地盤改良材を地中に噴射し、原位置土と改良材を攪拌混合し、固化する地盤改良工法である。地滑り対策については、抑制工と抑止工の両方による対策が相応しい。抑制工では、集水ボーリング工法により、斜面から校舎に向かって横ボーリングを行い、地下水を集める。抑止工では、抑止杭工法により、敷地の谷側に北から南へ杭を壁のように打ち込む工事である。工期は約7年間かかり、内5年間は現在の校舎は使用ができない。概略工事費は約30億円かかる。ただし、以上の工事を行ったとしても、不安要素は拭えない。パワーブレンダー工法では、地中13メートルまでしか改良ができないため、その下にある軟弱地盤の改良ができない。大きな重機等を用いて、もっと深い所まで工事を行うことは、現場状況から現実的ではない。また、5年間は現在の校舎が使えないことが良いのかということもある。仮設のプレハブ校舎の建築も考えられるが、同じ敷地内で大規模な工事を行っているなかで、子どもの安全確保をどうするかといった問題や、学校の運営上の問題もあるため、現時点でプレハブ校舎の建設は考

えていない。)

【委員長】

校舎のレイアウトは具体的に考えているのか。

【事務局】

レイアウトまで話を深めていない。以前から、校庭に校舎を建て、校舎がある所を校庭にしてはどうかという話を頂戴しているが、現時点ではレイアウトの作成までは至っていない。また、30億円と申し上げたのは、概算工事費であり、現地を建築物の敷地として使うためには、どのような改良が必要で、その改良にいくらかかるのかという検討を行った。

【委員】

現時点での見積金額は、現在の規模の校舎を全面建替えるということでの積算なのか、それとも規模を縮小した校舎で建替えるという積算なのか。校舎の規模で金額は変わるのか。

【事務局】

仮に、南校舎以外の部分を新築するという前提で積算した。

【調査業者】

現在の300人規模の学校を建てるという前提での積算である。

【委員】

では、規模を縮小したことを盛り込んでの積算ということで良いか。

【調査業者】

そうです。仮に規模を縮小すると、校舎1つ分くらいが要らなくなる可能性がある。ただし、あくまでも概算である。

【委員】

今の北校舎は使えるのか。古いことは分かっているが。

【調査業者】

現在の敷地には、既存の杭が沢山入っているため、新しく校舎を建てるのは不可能。建てるなら、校庭しかない。

【委員】

北体育館の辺りには、校舎は建つのか。北体育館は壊して。仮に北校舎の辺りで済むなら、地盤改良は不要になるのか。

【事務局】

建築敷地全体として対策する必要がある。建物を建てる所だけを地盤改良すればいいということではなく、斜面全体の盛土が動いた時を想定すると、盛土全体を改良する必要がある、また斜面を押さえることも必要である。

【委員】

北体育館の辺りは関係ないのでは。

【事務局】

学校敷地全体を建築敷地として成り立たせる必要がある。また、先ほど調査業者から話があったが、現在の敷地にはコンクリートの杭が多数打ってあるため、この場所に建物を建てられるのか、という今度は建築サイドの検討が必要になる。そうすると次は、北体育館のある所を切土すればいいのでは、という話になっていくが。

【委員】

切土しなくても、北校舎と北体育館のある所に建てられるのか。

【事務局】

学校の規模の話にもなる。南校舎が要らないというのも、想定の話である。現在の岡谷小の教育環境がどのようなものであるかを考える必要がある。現在は、あくまで想定の話である。

【委員】

北体育館と北校舎の所に、学校は建てられるのではないか。

【事務局】

どのような対策が必要なのかは分からないが、候補の1つではあるのかもしれない。しかし、先ほどから委員長からも話があるが、この場所が急傾斜地であることに変わりはなく、さらに斜面の高い所に向かっていくのはいかがなものか。

【委員長】

北に行くほど、急傾斜の対応をしなければいけない。

【委員】

今話があったことは、いつ検討されたのか。

【事務局】

今年3月から説明会を行っているが、その前に結論を得る段階で検討したものである。

【委員】

今日の資料には、新たに加わったことはあるか。

【事務局】

工事を行うにあたり、仮設工事の辺りについてさらなる検証を加えている。

【委員】

基本的な部分については、3月の時点で結論を出すための判断材料に使ったということでしょうか。

【事務局】

そうです。

【委員】

費用のことで伺いたい。地盤改良や地滑り対策に、国からの補助はあるのか。

【事務局】

現在承知しているなかでは、おそらくあまり期待できないと思われる。

【委員】

校舎建築の13億円というのは、補助金は想定していないということか。

【事務局】

財源的な部分はまだ詰めていない。とりあえず、どのくらい費用がかかるかという概算工事費である。

【委員】

5年後の児童数の見込みはどのくらいか。

【事務局】

H30年度で、265名。現在が270名。

【委員長】

それを想定すると、どのくらいの規模の校舎が必要になるのか。教室数等。

【委員】

現在でも十分大きい。

【委員】

先日校長先生と話をしたが、北校舎で使用できる教室が12あるので、全学年のクラスが入ることになる。その他に南校舎で何が必要かという、調理室等の特別教室が3~4教室あれば足りるようだ。+αとして、その他自由に使える教室をどのくらい見込むかによる。

【委員】

北校舎で全て足りるようであるならば、耐震性に問題がある南校舎で授業を受けている現在の状況がショックである。今こうやっている間にも、より安全な方へ考えていただければ。

【委員長】

今できることがあるならば、やった方がよいと思う。

【委員】

今回の件は、直ちに危険性はないとの話だった。もし本当に危険であるならば、今通わせているのがいいのかという話になる。

【委員】

北校舎に全学年を入れることはできると思う。

【委員長】

建替えを検討すると同時に、応急的な対応も必要になるのではないかということだと思う。地盤改良工事を行うには、パワーブレンダー等の重機が通ることができる幅員の運搬路を造る必要がある。また、周辺には文化財の指定があるとのことだが、そうなると埋蔵物の調査が必要になる。その辺りについては。

【事務局】

東側と西側両方に遺跡があり、3ヶ月程度の調査が必要になる。北体育館の辺りで、かなり大きな範囲が対象になる。また、西側の斜面の辺りも対象になる。

【委員長】

遺跡に関する調査の必要性を考えると、工期にも影響が出る。地盤改良と水平方向の集水ボーリングによる工法は、一般的に行う工法であり、効果がある。斜面の崩壊を防ぐには、水を抜くことが一番効果的である。

【委員】

盛土を安定させるためには、確かに良い工法かもしれないが、活断層の問題を考えてしまうと、それだけで十分なのかと不安は残る。

【委員】

地滑り地帯といった構造的な問題もある。

【委員】

工事用地を確保することが難しいのではないかと。下は住宅地であり、急傾斜の斜面をダンブカーが通る状況は考えにくい。また、周辺の騒音や振動等の環境対策に係る費用も別に必要になってくる。

【委員】

確認させてもらいたいのが、パワーブレンダーによる中層地盤改良は、マラソンコースがあるのり面に対しての対策にもなるのか。

【調査業者】

それもあつた。盛土のり面の地盤改良と仮設盛土を行う。そのためには、かなり大きな仮設盛土が必要になり、費用面と工期面で一番ネックとなる。パワーブレンダー以外の大型機械は、のり面では使えない。盛土をしながら、平らな場所を作って工事をするようになる。パワーブレンダーは、斜面では使えないため、仮設盛土をして、作業ができる平らな場所を作って工事をするということ繰り返していく。これがものすごく時間のかかる作業となる。

【委員】

素人考えだが、抑止杭をしてのり面の地盤改良が進んでいくと、平らな部分の地盤改良はそれほどしなくても良い気がするが。

【調査業者】

軟弱地盤に杭を打つても、地滑りが起きたときにはすり抜けてしまう。杭と杭の間の地盤を改良しないと、地滑りが止められない。一体化させて補強する必要があるため、平場の地盤改良は必要となる。

【委員】

抑止杭と抑止杭の間隔は、1.5メートルくらいになると思うが、杭の周辺だけを改良して、すり抜けないようにすれば良いのでは。

【調査業者】

杭の周りだけでなく、その他大半の軟弱地盤の対策を行う必要がある。

【委員長】

N値 3~5 という軟弱地盤が続いているため、それを改良しなければ、抑止杭を打っても止められない。地盤改良と抑止杭の両方で止める工法である。

【委員】

地盤改良で上の滑りを止めて、抑止杭と合わせてがっちり止める必要がある。

【委員長】

地盤改良すると摩擦が増し、滑りに対しても安全性が増すことになる。

【委員】

素人的な発言になってしまうが、10 数メートルくらいの軟弱盛土を全部取ってしまえばいいのではないかと。下に住宅もあるため、これは岡谷小学校だけの問題ではない。

【委員長】

全ての土を取るとなると、相当な土量を外に出す必要がある。ダンプトラックで何万台になるのでは。費用も相当かかるのではないかと。住宅地の中をかなりの数のダンプが行き来することになる。周辺地域に対しての影響も大きい。

【委員】

それは仕方がない。費用はどのくらいかかるのか。

【調査業者】

結論に至るまでに沢山の工法を検討するなかで、土を全部取るという工法は、最初に考えた。一番確実な方法ではある。しかし、委員長から話があったが、どうやって土を出すのかという困難さと、もう 1 点、これは北体育館の方へ切土する案と通じるが、敷地全体が大規模な地滑り地形である可能性が高い。現実には、明治大正時代に造成する際に、裏山が崩れてけが人が出たという記述がある。現地視察の際にもお話したが、現在も急傾斜地に指定されているなかで、大きな切り盛りをすることは、不測の危険性が生じる可能性がある。

【委員】

今日の説明を聞いても、初めから結論ありきだと思う。最初からあの場所はない、資料を出せと言われたから仕方がなく出した、というように今日の資料を見て感じた。もっと夢のある話をしてほしい。子どもたちのために、あの場所に岡谷小を建てることの良さを考えてもらい、本気になってこうすればできるという話をしてほしい。

【委員長】

事実を曲げているわけではない。

【委員】

勿論、そうである。

【委員長】

いろいろな事象を分析すると、結構大変という話。

【委員】

それは分かっている。大変だけれどもという話。

【事務局】

夢のある話というのは分かるが、実務として、いかに安全を担保するかという所からスタートしている。中途半端にできそうなことはお話できない。調査業者や専門家のご意見を聞いてのことである。

【委員】

緊急性がないから、今はあの場所に子どもたちを通わせても良いという判断は、本当に正しいのか。

【事務局】

先ほど来、識者の方から意見をいただいているが、時間の問題もある。地震の発生確率というような話と、通常の中での安全度や緊急性の判断を一色単に考えると難しくなる。緊急性が無いなら現地は大丈夫だというのは、乱暴ではないかと思う。何よりもどのように安全性を担保するかという1点で考えている。

【委員】

それは私もいっしょである。なぜ不信を抱いたかということ、2年という数字である。なぜ、そんなに2年にこだわるのか。

【委員長】

2年というのは。

【委員】

あと2年で結論を出すということ。

【委員】

そう。2年なんてどうでもいいことではないか。

【事務局】

何度も申し上げているが、われわれはそこを目標に耐震改修を進めている。あと3年でも5年でもいいじゃないか、または、140年も安全だったから大丈夫ではないか、という話にはならない。市内小中学校の耐震改修を平成27年度末までに行うことを目標に努力している。

【委員】

目標を持つのはいいが、夢のある計画を見せてほしい。

【事務局】

あくまで実務として、安全性をどう担保していくかが大事である。委員さんのおっしゃる夢とは、どのようなことを描いているのか。

【委員長】

安全確保することを優先してから、どうするかということだと思う。夢を叶えるには、安全がないと。

【委員】

安全に通学するためには、どうすればいいかということが全く見えない。いつまで経っても同じというか。

【委員】

活断層も含めて、われわれの力ではどうにもならないこともあるなかで、どう安全を担保していくかということを考えなければいけない。工事のために5年間の空白が生まれることや、先ほども話があったが教室の戸が開かないとか、壁が割れているというような環境で子どもたちが勉強している問題こそ、議論すべきではないか。安全な教育環境を整えることが議論の主題になるべきだと思う。あの場所に学校建てるのが前提でもなければ、移転することが前提でもない。

【委員】

それは私も同じである。

【委員】

温度差があると思う。われわれはあそこで学校が無くなった時のことを考えている。他の委員さんは良いかもしれないが、われわれにはこれから岡谷小に通う子どもがいる。もしあの場所で学校がなくなったら、田中小まで1年生が歩いて通うことは難しい。当然、安全を確保できた前提で現地での存続について議論するが、もしだめなら、次のことも考えないといけない。今日の話だと、こうすればいいのではないかという話になると、直ぐにここがだめですという話になる。活断層があって、急傾斜地で、盛土があるこの場所は、もうだめということか。

【委員】

普通の人はその思う。岡谷小への思いの強い人は、いくらお金をかけてでもと思うかもしれないが、普通の人は何でそんなに危険な所にとと思うのではないか。私はそう思う。

【委員】

識者の方から、いろいろな課題がクリアされない限り、そもそもこの場所では無理という話であれば、移転か分散で話を進めていった方がいいのではなはいか。

【委員】

地元の人は何としても残せと言うかもしれないが、よそから見ると、安全な場所に学校を建てた方がいいのではないかと思う。

【委員長】

絶対的な安全を確保することは難しい。

【委員】

先ほど、夢のある岡谷小学校をとというような意見があったが、それを実際にやろうとするならば、お金や工事期間、工法など多くの課題をクリアしなければいけない。それらをクリアしなければ、夢のある学校は建てることはできないということを、今日の資料は示していると、私は受け取っている。

【委員長】

ハードルは高い。

【委員】

一つの学校の話であると考えられると、面白くない。岡谷市全体のまちづくりという視点で考えていただきたい。そうすれば、市としても楽しくできるのではないか。

【委員】

10年後、20年後の岡谷市の小中学校の構想は、具体的にあるのか。

【事務局】

まだそこまでは検討していない。

【委員】

それがないと、話が進まない。岡谷小の問題だけを考えればいいという話ではない。

【委員】

そんなに危険であれば、27年度までとは言わずに、明日からでもそんな危険な学校に子どもを通わせたくないという話になる。

【委員】

明日からでも北校舎に移ったらどうか。

【委員】

やれることはやった方がいい。

【委員】

地滑りが起きる要素に、雨の影響は大きい。長野県は全国平均の半分程度しか降水量がないので、今までがたまたま助かっていたということもある。いつ集中豪雨が岡谷市に起きてもおかしくはない。140年の歴史のなかで、たまたま無かっただけで、今後も無いとはとても言いきれない。

【委員長】

集中豪雨はどこでも発生するし、被害は起きる。過去に大雨を経験していないところで、被害が大きくなる。

【委員】

全国の公立小中学校施設の耐震化率は、8割を超えているなかで、岡谷市が取り残された状態でいいのかと訴えたい。先ほど、夢という意見があったが、夢を語るのは、市職員の仕事ではないと思う。市職員は実務を一生懸命やっている。夢を語るのは、市民であり、政治家であると思う。その辺りの議論が交錯しているように思う。外野の立場から言うと、もうちょっと結論を急ぎたいと思う。

【委員長】

H27年度末までに耐震化を行うことを目的にしているのは、岡谷市だけでなく、全国的なことである。いろいろな意見があると思うが、次回、ポーリング調査のデータが出てくると思うので、学校のレイアウトを示して検討いただくようお願いしたいが、よろしいか。

【事務局】

検討したいと思うが、どの程度までのものをお示しできるかは分からない。雨の問題や地震の時の盛土造成地としての不安定さ等も複合して検討しなければいけない。地盤改良は建築敷地だけで済むものなのか、また、盛土全体に不安定さがあることから、周辺の環境に対する影響を加味する必要がある。いろいろな要素が関わってくる話であるため、単に学校のレイアウトを出すことで済むことなのか、疑問がある。その辺りはいかがか。

【委員長】

急傾斜地の下の人に、負担をかけてはいけないため、のり面に建物を新たに建てるということは難しい。校舎はコンパクトにできるが、校庭は人数が半分になったから半分で良いというようにはならないと思うので、校庭は同じ面積を確保する必要がある。なので、レイアウトが大きく変わることはあり得ないということで良いと思っている。それを委員の皆さんが理解してくれるかどうか。

【事務局】

十分なお答えになるかどうかは分からないが、工夫しながら、知恵を頂きながら検討してお示ししたい。

【委員】

1点確認したい。30億円と7年かけて改良すれば、岡谷小はこの地で建て直すことができるということでしょうか。予算は変わることもあると思うが。

【委員長】

地震や地すべりに対しての問題がクリアされているかどうか。それだけのお金を投資することがいいのか、という議論にはなる。

【委員】

お金の話をちょっと置いておいて。お金は岡谷市に沢山あるので。

【委員】

識者の方は、移転した方がいいと思うか。

【委員】

岡谷区民が岡谷小は区の宝であると言うのは分かるが、他所からすると、危険な所に学校を建て替えることが本当に良いのかと思う。子どもに喜ばれる学校づくりというソフトの面の方がどれだけ大事かと思う。

【委員】

移転する方がコスト面でも良いということか。

【委員】

危険のリスクが高過ぎる故に、コスト計算ができない部分もある。安全が担保できない。通学路の危険もある。怖い所に子どもを通わすリスクを、親とすれば普通心配するのではないか。

【委員】

同じお金をかけるなら、ということか。

【委員】

安全が大事である。移転先が岡谷区内にあれば一番よいが。ソフト面でいい教育環境を整えていくことが大事ではないか。何年もかけてリスクをとって議論していくのか。

【委員】

リスクの話を使うなら、危険なのは雨とか地震だけではないと思う。車が沢山通るところの方がよっぽど危険ではないか。

【委員長】

通学路を変えたとしたら、その議論も必要になる。通学路の安全対策も市にお願いするようになる。

【委員】

岡谷区内に学校を建てられる場所はあると思う。これは可能性の話を行っている。

【委員長】

地権者がいるので、理解と協力が必要となります。

【委員】

可能性の話を行っている。これは次の議論だと思っていたので、今まで何も言わなかったが。まずは、現地で建替えられるかどうか、お金をかけてもやるのかどうか。岡谷区の7割ぐらいの区民は、今のところ現地存続を求めている。いろいろな会合で話を聞いても、区民はお金をかけても残してもらいたいと言っている。ただ、安全が絶対に確保できないということであれば、次の段階を考えなければいけないが、それは別の話である。

【委員】

いずれにしても、議論のスピードが大事だと思う。次回に結論を出すわけではないが、ある程度先へ進んでいきたい。

【委員長】

いろいろな意見が出ているので、整理する必要がある。

【委員】

調査平面図に校舎の亀裂が示されているが、それぞれの亀裂がいつ頃に確認されたのかということと、北校舎の庇に後から立てられた支柱や、南校舎東側の6年1部の教室の天窓が開かないということ立てられた支柱は、いつ頃に対応されたのかについて、次回示していただきたい。

【委員長】

修理をするということは、その時期がわかる。対応している所が何箇所かあるので、次回資料として出していただきたい。

【委員】

現在南校舎を使っているが、安全なのか。

【委員】

来週学校で集まる会があるので、先生と話をしてほしいと思う。北校舎に教室が12あるが、全学年で11クラスしかないので、北校舎に全クラスが入るのでは。

【委員】

その方が安心である。

【委員長】

それは、校長先生の権限でできるのか、それとも教育委員会なのか。

【委員】

基本的には、校長が判断する中身が良いが、教育委員会としても今の話を大事にしたいので、早速校長と詰めたい。ただ、学習内容が狭まることをPTAの皆さんにはご理解いただく必要がある。教室内の学習だけというわけにはいかないことがある。

【委員】

特別教室を南校舎に移して、普通教室を北校舎に集めることがいいのかなと思う。

【委員】

学校と話をして、教育委員会としてもいっしょに考えていきたい。

【委員】

われわれは専門家ではないので、よくわからない。

【委員長】

できることはやっていくことが大事だと思う。水の処理は、市の方でしっかり対応している。その辺りを含めて、次回に向けて宿題があるが、(3) その他ということで 次回の日程について、事務局から説明をお願いしたい。

【事務局】

次回の委員会は、7月末を予定している。日程が決まり次第、連絡する。

【委員長】

その他、事務局から何かありますか。

【事務局】

会議録の公表については、委員の皆様にご確認いただいた後で行うこととしているが、迅速に情報公開することが重要であると考えているため、2～3日のうちにご連絡をいただきたい。

【委員】

特に問題がない場合には、返事をしなくてもよいか。

【事務局】

では、2～3日経過してもご返事がない場合には、事務局としては、会議録の内容に問題がなかったということで理解させていただきたい。

【委員長】

今の件で、何かありますか。

(なし)

なければ、長時間に渡りましたが、以上で本日の検討委員会を終了します。
ありがとうございました。

閉会 午後 9 時 45 分